

関目のガスタンク

関目にガスタンクが存在したのは、いつからいつまでか。答は分からない。地域史の勉強会に父のアルバムにあった一枚の古い写真を持ち込んだことから、関目のガスタンクは一躍脚光をあびることになった。

現在、私の周りにはいる70～80歳代の誰に聞いても、皆懐かしそうに自分の幼かった頃の思い出話をしてくれる。

「京阪電車で天満からしばらく走ると、関目のガスタンクが見えてくる。すると、ああ帰ってきたなと思っただけです。」

小学校の同級生に電話したら、「昭和7.8年当時、関目から古市小学校に歩いて通っていた時、いつも見えていた」とその道順まで喋ってくれた。ついでに、「国技館のお茶屋さんのようなところにも子どもは入れてくれた」とも。ただ、「いつまであったん」と聞くと「知らんわ」の返事。

大きなビルの何階もあるような円筒形のわっぱの中に、ガスの蓄積量によって膨れたり縮んだりする仕掛けなのだ。私は天満のほうから森小路へ帰宅の途中に

関目のガスタンクをよく眺めていたが、それよりも関目のあたりに来ると、なんとも言えぬひどい臭気で思わず窓を閉めていたことを思い出す。近くに染工場があって、なんでも革をなめしているとのことだった。

ガスタンクがあった時期を調べていたが分からず、困り果ててガス会社に電話を試してみた。お客様相談室を通じて、大阪ガス株式会社大阪導管部計画チームの方にお話を聞くことができた。なんでも、「土地の登記簿にはあるが、そこにガスタンクをいつ作って、いつ撤去したのか記述がまったくありません。前にも同じことを聞いてこられたが、その時もそうお答えしました。ご要望にそえず申し訳ありません。」と丁寧な対応をいただいた。

おおかたの人の中に今も郷愁として存在する関目のガスタンクは、もはや幻と化していくのであろうか。



写真■昭和10年代の写真で見る関目のガスタンク

この写真は、城北運河（現：城北川）新森1丁目の貸しボート屋を撮影したものと推測されている。左が関目駅方面、右が森小路駅方面で、貸しボート小屋の左手遠方に関目のガスタンクが見られる。また、当時の京阪電車の架線を支える鉄橋の姿も見られる。



写真■平太の渡し

写真提供：(財)大阪市都市工学情報センター

第3章

旭区川と交通の今昔

いまむかし